

翠緑（すいりょく）の水辺を歩く

## 西沢溪谷（にしざわけいこく）

渡邊唯夫

西沢溪谷は笛吹（ふえふき）川の上流にあって、国師（こくし）ヶ岳方面からの水を集め東流する。その流れに懸かるさまざまな滝や淵を眺める遊歩路が整備され、春は新緑やシャクナゲ、秋には紅葉と相まって多くのハイカーの目を楽しませてくれる。

塩山駅で下車する。バスの便が悪いので北口からタクシーを利用して西沢溪谷入り口に向かう。途中「心頭滅却すれば火も自ずから涼し」と詠んで最期を遂げた快川国師の恵林寺などがかすめ、西沢溪谷入り口に着く。

子酉（ねとり）川に沿う林道を行くと右手からナレイ沢が入り「ナレイの滝」の出迎えを受ける。翠緑一色の林に僅かにレンゲツツジの朱色が覗く。又ク沢の両側には近丸新道、徳ちゃん新道という木賊（とくさ）山、甲武信（こぶし）岳に向かう登山道が通じている。東（ひがし）沢に架かる二俣吊り橋を越すと、上流に鋸歯状の鶏冠山（けいかんざん）がそそり立っていた。

東沢はここ二俣から甲武信小屋へと突きあげている。

西沢の川床が近づき「三重の滝」の脇に下り立った。エメラルド色の釜（滝壺）を持つ三段の滝である。フグ岩、人面洞を絡めて沢沿いの遊歩路を進んでいった。この溪谷は、激流が長い時をかけて花崗岩を浸蝕してできたもので、さらに龍神、恋糸（れんし）、貞泉（ていせん）といった滝、そして母胎淵、カエル岩などが連続して出てくる。方丈（ほうじょう）橋で右岸に渡ると、上流の樹間に水量たっぷりの滝が飛ばしっていた。溪谷随一の「七ツ釜五段の滝」の最下段だ。正面に回ると全貌が現われ、えも言われぬ色彩の釜と落水の妙味に心が奪われる。

滝に沿うように高巻きして、上部の川原に下り昼食をとった。

最後の「不動の滝」を俯瞰しながら右岸の山腹に取り付く。先の五段の滝周囲にも、この斜面にもシャクナゲの木は多いのだが、残念ながら花はすべて終わっている。中腹にある森林軌道跡に出た。奥に向かえば黒金山に至る。

昭和8年～43年頃、木材を塩山まで輸送したトロッコの軌道跡で所々レールが残っている。初期には馬でトロッコをあげ、下りは人力で手動ブレーキ一つで操作していたようで驚嘆させられた。途中で20本ほどの丸太を積載した車両が展示されている。



七ツ釜五段の滝



西沢溪谷付近略図

沿道には「ひこいっちゃん 転ばし」とか、「いこり転ばし」と呼ぶ難所もある。後期には麓にはディーゼル機関車が導入され車両を牽引したという。

対岸に鶏冠山が見えてくる大展望台を過ぎ、まもなく大久保沢を大きく迂回して下りていく。尾根筋を乗っ越す所に祠が現れた。大嶽山那

賀都（だいたけさんながと）神社で、大山祇（おおやまづみ）神を祭るとあるので、下山の無事を祈念した。

期待したシャクナゲには遅すぎたが、翠緑と水との饗宴に満足して軌道跡、林道をたどり、バス停へ急いだ。この日は、かなりの入山者があったのに臨時バスはなく、途中から乾徳山の下山客も乗り込み、はち切れんばかりになって塩山駅に到着した。

（10年6月6日（日）歩く）

●コースタイム

西沢溪谷入口—20分—子西橋北詰—15分—二俣吊り橋—20分—三重の滝—35分—七ツ釜五段の滝—10分—不動小屋跡—10分—森林軌道跡—20分—大展望台—25分—山の神—25分—子西橋北詰—20分—西沢溪谷入口

[計3時間30分]

●費用

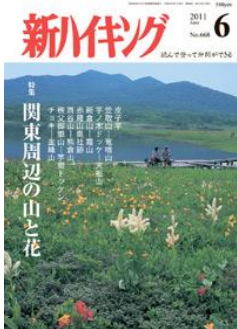
新宿＝塩山 JR 1890円  
 塩山駅＝西沢溪谷入口 バス 1000円  
 // タクシー—6200円 ※1

●問い合わせ先

山梨貸切自動車 0553—33—9141 ※2  
 甲州タクシー 0553—22—1551  
 歩道管理組合事務局 0553—39—2121 ※3

●地図

雁坂峠 金峰山（2万5千）  
 甲府（20万）



このページの情報は、新ハイキング社発行の「新ハイキング 2011年6月号」に掲載された記事を、新ハイキング社の許可を得て転載したものです。

掲載当時の文章をそのまま掲載していますので、コースの現況や交通機関等の情報が現在と相違していることがあります。（一部修正箇所は注釈を加筆しています）

実際にコースを歩いてみて、「がけ崩れで通れなくなっている」「コースが付け変わっている」「新しく標識ができている」などの情報がありましたら、山梨市観光協会（山梨市役所観光課内）まで情報をお寄せください。

---

- ※1 現在の金額はおおむね6500円程度
- ※2 現在は以下のとおりに変更 山梨交通（株） 0553-33-3141
- ※3 現在は以下のとおりに変更  
歩道管理組合事務局（山梨市役所観光課内） 0553-22-1111